

初戦勝利に貢献



初戦を完勝したソフトボールの日本代表(21日、福島県営あづま球場で)＝富田大介撮影

ソフト

Tokyo 2020+

渥美守備で力発揮 山崎出塁 全力疾走

東京五輪の開会式に先駆け、ソフトボールが21日に始まった。日本は豪州を8-1の五回コールドで下し、本県出身の2選手も全力プレーで勝利に貢献した。サッカー女子の日本、カナダ戦もキックオフし、熱戦を展開した。

ソフトボールの豪州戦 スタメンに名を連ねた。福島市の福島県営あづま球場で行われ、ともに常葉菊川高(現・常葉大菊川津木麗華監督)として期待されている。五回には、先頭打者が放った三遊間深く(32)が9番・遊撃、山崎早紀選手(29)が5番・左翼で頭打者が放った三遊間深くのゴロを逆シングルで捕球

すると、素早く身を反転させて一塁に送球。アウトにしてピンチの芽を摘んだ。掛川市出身の山崎選手は、2020年の日本リーグで打率と打点の打撃2冠に輝き、MVPを獲得した。一回の打席は、豪快なスイングを見せたものの右飛に。先頭打者で迎えた四回は、遊ゴロを全力疾走して相手の失策を誘い、出塁。次打者の本塁打で生還した。高校時代から目標に掲げてきた「五輪出場」を果たした。

ソフトボールは、6か国が総当たりの1次リーグを戦う。1、2位が決勝、3、4位が3位決定戦に進み、どちらも27日に行われる。

パラ聖火中止 熱海市が発表

熱海市の斉藤栄市長は21日の記者会見で、8月17日に市内で予定していた東京パラリンピックの聖火リレーを中止すると発表した。土石流災害で行方不明者の捜索活動が続いていることなどを踏まえ、県と協議して認められた。

斉藤市長は「楽しみにしていた市民には大変残念な報告となるが、ご理解をいただきたい」と述べた。聖火リレーは静岡、千葉、埼玉、東京の4都県で実施する。熱海市は県内5市を巡る起点となる予定だった。

掛川から熱い拍手



山崎早紀選手の実家がある掛川市では、父の明さん(58)、母の真理子さん(56)、近所の人ら十数人が近くの公民館でテレビ観戦した。当初は20人ほどで福島に行っ

山崎選手の初打席の母の真理子(左)と父の明さん(右)を見守る母の真理子(左)と父の明さん(右)

五回コールド勝ちに、明さんは「もう一打席見たかった」と話し、「初戦なので勝利が大事。勝って良かった」と顔をほころばせた。

プレーする山崎選手を見て、真理子さんは「リラックスしている。いつも通りだ」と笑顔。四回には失策で出塁し、後続が本塁打を放つと、大きな拍手が起った。高校時代の先輩、渥美万奈選手の好守備にも会場が沸いた。